

主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・R1年度)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	上下水道部
	17106	亀山・関テクノヒルズ給水機能強化事業	課名	上水道課 上水道工務G
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上	会計	11:水道公営企業会計
	基本施策	03:上下水道の充実	款	資1:資本的支出
	施策の方向	01:安全でおいしい水の安定供給	項	01:建設改良費
戦略プロジェクト	-	目	01:施設費	
事業予定期間		H 29 ~ H 30 年度	主な根拠法令要綱等	水道法

② 目的・概要	対象	亀山・関テクノヒルズ(第5期造成工事区域)に立地する企業
	目的	亀山・関テクノヒルズ第5期造成工事の工事着手に伴い、造成宅地の計画地盤高が高く水圧不足が見込まれることから、加圧ポンプ施設を建設し、水圧不足の解消を図る。
概要		亀山・関テクノヒルズに加圧ポンプ施設を建設する。なお、建設にあたっては、開発事業者(住友商事(株))と協定を締結し、建設に要する費用の1/2を開発事業者が負担する。

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	○亀山・関テクノヒルズ加圧ポンプ施設 ・詳細設計 ・地質調査 ・建設工事	○亀山・関テクノヒルズ加圧ポンプ施設 ・建設工事		
	年度実績	○亀山・関テクノヒルズ加圧ポンプ場施設整備 ・詳細設計業務委託 ・地質調査業務委託 ・建築工事 (H30へ繰越) ・機械・電気設備工事 (H30へ繰越) ・建築工事監理業務委託 (H30へ繰越)	○亀山・関テクノヒルズ加圧ポンプ場施設整備 ・建築工事 ・機械・電気設備工事 ・建築工事監理業務委託		
事業費	計画額	事業費	73,500千円	56,500千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他	36,750千円	28,250千円	
	予算額(※)	事業費	38,141千円	91,859千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他	19,070千円	45,929千円	
	決算額	事業費 ①	12,850千円	70,737千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他	6,425千円	35,368千円	
人件費	一般財源	6,425千円	35,369千円	0千円	
	総人件費 ②	1,536千円	1,557千円		
	一般職員	1,536千円	1,557千円		
	所要人員	0.20	0.20		
	臨時職員等	0千円	0千円		
総コスト(①+②)		14,386千円	72,294千円		
受益者負担率		0.0%	0.0%		

			平成29年度	平成30年度	令和元年度	
④ 指標	①	名称	亀山・関テクノヒルズ加圧ポンプ施設工事整備率	計画値	56	100
			実施済み事業費/総事業費	実績値	10	100
				単位	%	%
	②	名称	亀山・関テクノヒルズ内の水圧不足となる宅地ポイントの水圧	計画値		0.15
			水圧不足となる宅地ポイントの水圧状況	実績値		0.15
				単位		Mpa以上
③	名称		計画値			
			実績値			
			単位			

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 平成30年度の亀山・関テクノヒルズ加圧ポンプ施設整備に向けて、円滑に工事等を進める必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 平成30年度内の施設完成に向け、関係者との連携・調整を密にしなが、工事を実施した。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 開発事業者との工事内容の協議に時間を要し工事契約締結が遅れたため、平成29年度の工事を平成30年に繰越したが、当初計画どおり平成30年11月に完成することができた。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 亀山・関テクノヒルズ第5期造成区域における水圧不足が解消され、同区域に安定的な給水が可能となった。	A 十分な成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 加圧ポンプ施設の給水区域における給水需要を見極め適切な運転管理を行う必要がある。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】 平成30年度で事業完了
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 給水需要が計画給水量に達するまで稼働の少ないポンプを定期的に運転させ、施設適切な管理を実施して行く。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 企業誘致が図れ工場等が稼働した際、速やかに安心安全な水の供給が図れる。	
対応時期		施設運転開始直後から	

【1次評価者】	上下水道部 上水道課 上水道工務グループリーダー 山内 光広
【最終評価者】	上下水道部 上水道課長 杉本 良則

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	B	A			
	成果	B	A			

※平成30年度予算額(事業費)の内訳について

		予算額(事業費)	91,859 千円
内訳	平成29年度からの繰越額	35,359 千円	
	平成30年度最終予算額	56,500 千円	
	令和元年度への繰越額	- 千円	